

2022年度新社会人入職研修が行われました

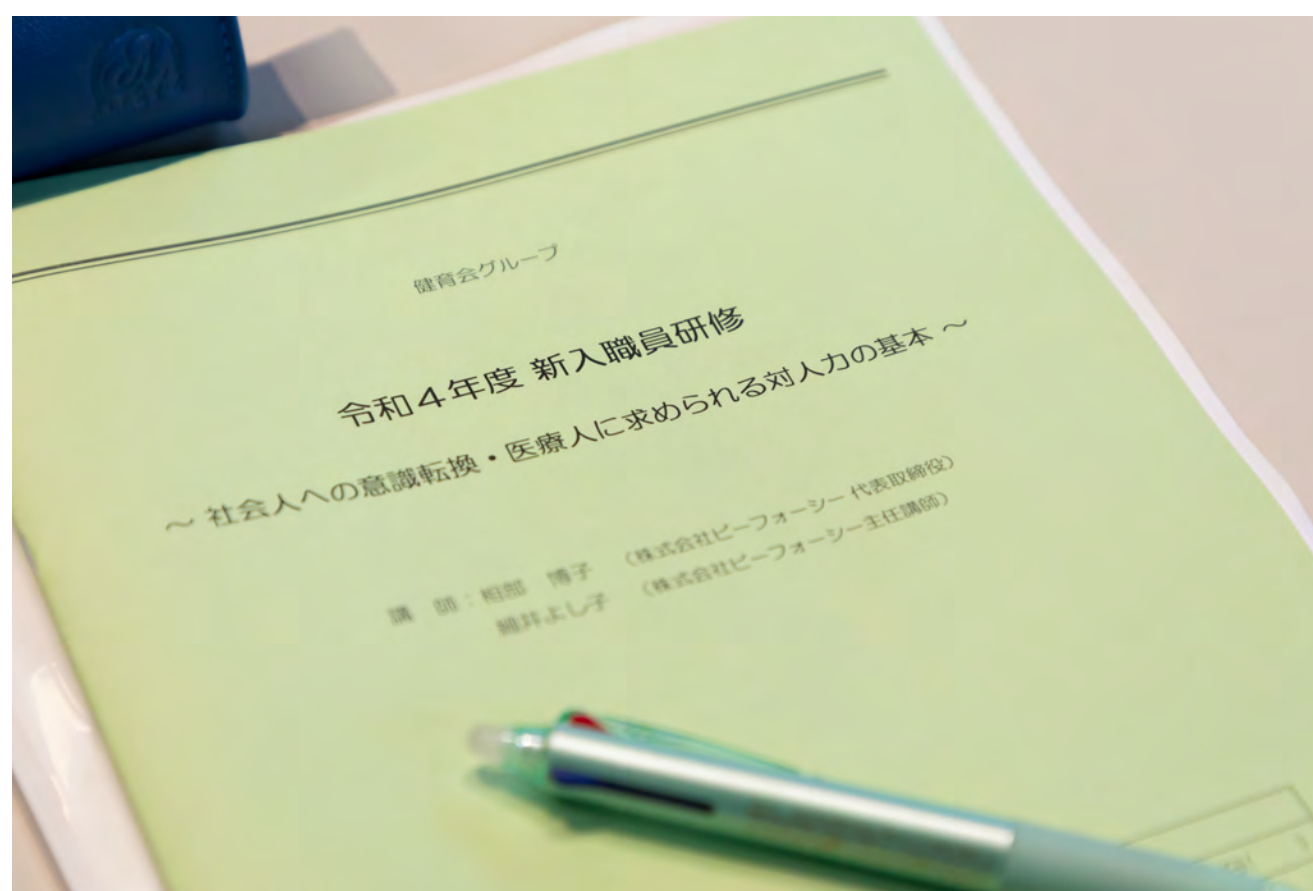
医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2022年度に健育会グループへ入職した新社会人に向け、入職研修を実施しました。社会人・医療人として働く姿勢や心構えについての講義を行い、私からも健育会グループの理念や新社会人の皆さんへの想いをお伝えしました。



今年、健育会グループでは124名の新社会人を迎えました。すでに4月から全国の各施設で働いてもらっていますが、改めて連休前の4月27日に新社会人の皆さん全員が集まって、入職研修を行いました。新型コロナウイルス感染症が蔓延して以降初めての一斉開催となり、徹底した感染対策のもとでの実施となりました。その様子をお伝えします。



まずは人材育成のプロであるビーフォーシーから、働く上での心構えについて講義を行いました。学生から社会人になる上での意識転換や、人の命に触れる医療人として働いていくために必要な考え方や姿勢についてお話し、ディスカッションを交えながら理解を深めてもらいました。



私からは、新社会人への激励や健育会グループの経営理念、社会貢献への想い、私が新社会人の皆さんに約束することなど、理事長講話として話をしました。



医療人として働く上で一番大切なことは、「責任感」です。私は医学生時代に小児科の試験で口頭試問を受けた時、教授に「なぜこんな簡単な問題を間違えたのか」と聞かれました。そこでうっかりしていたと答えると、普段温厚な教授に「医者がうっかりしたら患者さんは死んでしまう。2度とやってはいけない」と叱られたのです。今でもその言葉をよく思い出します。医療や介護は、人の命を扱う現場です。みなさんも、些細なミスが人の命を傷つけてしまう仕事に就いたということを忘れずに、責任感を持って働いてほしいと思います。

二番目には大切なことは、「組織の規則に則った行動」です。自分勝手な行動は医療事故を招き、職員の和を乱します。医療や介護の現場は、少ないマンパワーで多くの仕事をこなさなくてはなりません。そのためにはチームワークが大切になります。規則を守って、互いに協力しあえる職場環境作りを心がけてください。そして69年間にわたり4000人の職員が築上げてきた健育会の歴史や功績をみなさんにも受け継いでほしいのです。



厳しい話ばかりで不安になったかもしれませんが、最初は「自分は何もできない」という謙虚な気持ちで仕事に取り組むことが大切です。慢心は事故のもとだからです。そしていつか患者さんや介護者、ご家族の皆さんに喜ばれるような、社会に貢献できるような仕事をするという意識を持って頑張ってください。



そして、私から皆さんに約束することは3つです。経営理念として「仕事のやりがい」「一人ひとりの人生の夢」「医療・介護に携わるものとしての使命感」を掲げています。適正な評価制度で、頑張った分だけ給与や昇進につながる環境を整えます。また医療現場は非常に忙しいですが、そうした中でも皆さんには人生の夢を持ってほしいと思います。そのためにやりがいを感じることができ、心に余裕を持てるような職場を実現したいと考えます。

そして医療の世界は日進月歩ですから、常に学び続ける必要があります。忙しい中でも発表会・勉強会に参加して、日々勉強を続けることで将来の肥やしになります。とはいえ、やる気がなくては身になりません。原動力は、使命感があるかどうか。今はたとえ使命感がなくても、患者さんやご家族に褒められることで次第に芽生えるものですから、心配せずに日々の仕事に取り組んでください。



さらに、健育会グループの文化を象徴する事例を紹介します。

健育会の石川島記念病院では、昨年9月からリハビリ病棟の一部を新型コロナウイルス感染症の病棟へと転換しました。この取り組みが注目され、ニュース番組の「報道ステーション」で取り上げられたのです。救急受け入れや急性期患者も未経験の中、病棟の転換は実行までたった1ヶ月という急ピッチで進められ、受け入れ後も現在まで職員から感染者を一人も出さずに、満床で運営を行っています。



こうした取り組みは、健育会のキャッチフレーズである「チャレンジ」「スピード感」を体現した事例であり、我々の強みであると自負しています。皆さんもグループの一員として、様々なことにチャレンジしてほしいと思います。

新社会人のみなさんが、一日も早く、やりがいをもって、健育会を牽引する一員となるよう、応援、期待しています。